

第19回歴史文化をめぐる地域連携協議会

古文書を読む、楽しむ、活かす

—コロナ禍の中で考える—

オンライン開催

日時：2020年12月19日（土）13:00～17:00

要事前申込 定員200名

古文書は単なる「歴史資料」ではなく、人々をつなぎ地域活動に資する、地域歴史遺産となる可能性を秘めています。今回の協議会では、古文書をめぐる各地の様々な活動を通して、古文書の将来的な保存・活用のあり方について議論していきます。またコロナ禍での新たな活動方法についても紹介します。

第1部 楽しく読む、楽しく続ける

- 報告① 歌井昭夫（高砂古文書の会）
「地域の古文書を読んで30年」
- 報告② 大木朋子（猪名川古文書を楽しむ会）
「猪名川古文書を楽しむ会の活動」
- ## 第2部 読む楽しみ、活かす楽しみ
- 報告③ 乾文男（宝塚の古文書を読む会）
「宝塚の古文書を読む会の活動状況」
- 報告④ 南田潤（平野歴史民俗研究会）
「三輪執斎、土橋友直帰郷を送る文」と
過ごした228日～活字史料による郷土史
研究会の活動報告～」

第3部 コロナ禍の中で考える

—オンラインを利用した活動

- 報告⑤ 志賀蓮子（神戸大学近世地域史研究会）
室山京子（神戸大学非常勤講師）
「市民とともに学ぶということ
—神戸大学近世地域史研究会活動紹介」
- 報告⑥ 河島裕子（尼崎市立歴史博物館）
横山朋子（神戸大学大学院人文学研究科事務補佐員）
「オンラインを利用した古文書初級講座」

申込方法

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター HP に設置した

申込フォームをご利用ください **申込締切 12月16日（水）**

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>

協議会当日、神戸大学へのご来場はお断りしております

問合せ

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
TEL&FAX 078-803-5566
E-mail area-c.kyogikai@people.kobe-u.ac.jp
URL <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~area-c/>

主催：神戸大学大学院人文学研究科、同地域連携センター

共催：兵庫県教育委員会、科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」研究グループ（研究代表者・奥村弘）大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

《開催趣旨》

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、地域歴史遺産の保全・活用をすすめるべく、地域で活動されている様々な方と協働し、事業を進めてまいりました。とりわけ、地域の歴史資料（古文書）に関しては、地域の歴史に触れるための重要な手がかりとして、整理会や読む会、展示会などを通じて、その面白さ、重要性を伝えてきました。

急激な地域社会の変化の中で、滅失の危機にさらされている古文書ですが、一方で、熱心に古文書の整理・判読に取り組まれている方もおられます。読み解くことで地域の歴史を知る。書かれていた内容をまちづくりに活かす。読めなくても、現物に触れることを楽しむ等。古文書をめぐる多様な活動は、古文書が単なる「歴史資料」ではなく、人々をつなぎ地域活動に資する、地域歴史遺産となる可能性を秘めていることを示しています。

しかし、一口に古文書整理・古文書判読といっても、扱う資料の種類、活動に関わる人によって、活動方法や抱える問題はさまざまです。膨大な未整理の古文書を抱え、整理が追いつかない地域もあれば、身近に古文書が少なく、テキストを確保するのが難しい地域もあります。また、読んでみたいけれどもくずし字の読み方がわからない、近くに古文書を教えてくれる人がいない、といった判読にかかる問題を抱える

人たちも少なくありません。せっかく古文書を読む会を結成し、地道な活動を続けていても、参加者の高齢化が進み、一方で新規の参加者が増えず、先細りしてしまうといった継続性の問題もあります。

昨今では新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの人が一堂に会する整理会や古文書を読む会の開催が困難になっている状況もあります。そうした中でも、感染症対策に工夫を凝らして活動を継続される団体、オンラインを利用して新しい活動方法を模索する団体など、さまざまな動きが始まってきています。

こうした状況を踏まえ、今年度の協議会では「古文書を読む、楽しむ、活かす—コロナ禍の中で考える—」をテーマに、各地で古文書に関わる諸活動に取り組んでおられる皆様にご報告いただくことになりました。また、コロナ禍の中ではじまった、オンラインを利用した活動方法についても紹介いたします。

各団体の多様な活動のあり方に学びつつ、これまでの地域連携センターの取り組みやそこから得られた理念を踏まえながら、地域の歴史を紐解くための身近な存在である古文書の将来的な保存・活用のあり方について議論していきたいと考えています。多数のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 13:00 開会挨拶 品田 裕 (神戸大学理事 / 副学長)
- 13:05 主催者挨拶 奥村 弘 (神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター長)
- 13:10 問題提起 井上 舞 (神戸大学大学院人文学研究科特命助教)

□第1部 楽しく読む、楽しく続ける

- 13:20 報告① 歌井 昭夫 ([高砂市] 高砂古文書の会)
「地域の古文書を読んで30年」
- 13:40 報告② 大木 朋子 ([猪名川町] 猪名川古文書を楽しむ会)
「猪名川古文書を楽しむ会の活動」
- 14:00 休憩

□第2部 読む楽しみ 活かす楽しみ

- 14:10 報告③ 乾 文男 ([宝塚市] 宝塚の古文書を読む会)
- 14:30 報告④ 南田 潤 ([大阪市平野区] 平野歴史民俗研究会)
「『三輪執斎、土橋友直帰郷を送る文』と過ごした228日
～活字史料による郷土史研究会の活動報告～」
- 14:50 休憩

□第3部 コロナ禍の中で考える—オンラインを利用した活動

- 15:00 報告⑤ 志賀 蓮子 (神戸大学近世地域史研究会)
室山 京子 (神戸大学非常勤講師)
「市民とともに学ぶということ—神戸大学近世地域史研究会活動紹介—」
- 15:20 報告⑥ 河島 裕子 (尼崎市立歴史博物館)
横山 朋子 (神戸大学大学院人文学研究科事務補佐員)
「オンラインを利用した古文書初級講座」
- 15:40 休憩

□第4部 コメント・全体討論 (～17:00 終了)

- 15:50 コメント：木村 修二 (神戸大学大学院人文学研究科特命講師)
討論司会：奥村 弘